



5月14日～20日は「ギャンブル等依存症問題啓発週間」

ギャンブル等依存症問題による中退率は**およそ3割！**

広がるオンラインギャンブルのリスク

毎年、5月14日～20日は「ギャンブル等依存症問題啓発週間」です。当会では啓発週間に合わせ、相談に来所したギャンブル依存症者を持つ家族からのデータをまとめました。
ギャンブル等依存症を発症した当事者は、大学以上に進学した者の3割が中退する事態となっていました。20代～40代の働き盛り、子育て世代の相談が最も多く、子供を含めた家族全体を巻き込んだ問題となっていることがわかります。またオンラインでできるギャンブルの相談が増え、犯罪歴の増加も読み取れます。

【調査方法】

2019年（n=188）、2020年（n=169）、2021年（n=194）計 n=551

当会主催の相談会に来訪したギャンブル依存症者の家族による記述式アンケート調査

【Q1】基本情報（ ）内は%

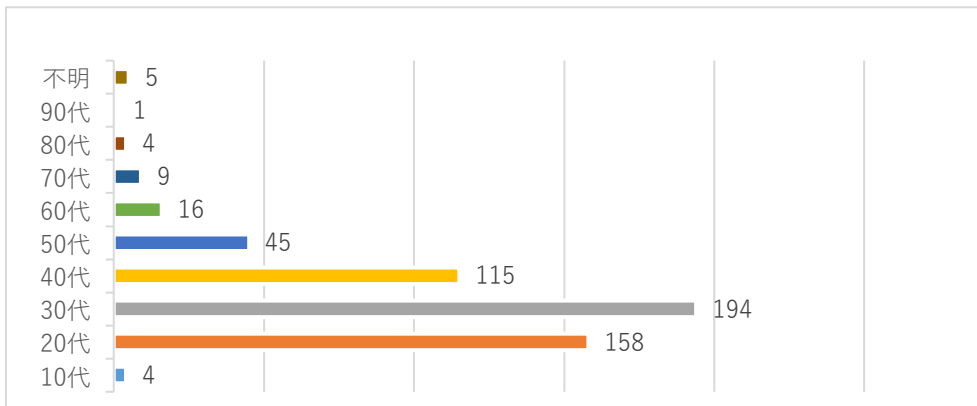
①相談者の属性

②当事者の性別

年	合計人数 (n)	親	配偶者	兄弟	友人 恋人	その他	無回答	同居割合
総計	551	338 (61.3)	144 (26.1)	25 (4)	6 (1.0)	29 (5.2)	9 (1.6)	277 (54.2)

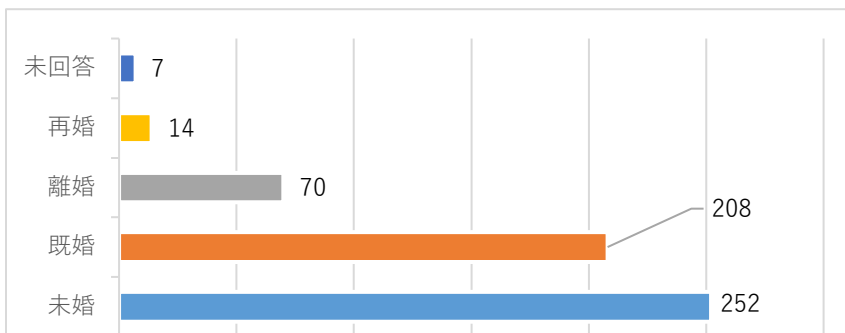
男	女	無回答
523	22	6

③当事者の年代 *当事者が20代～40代の働き盛り、子育て世代の相談が圧倒的に多い



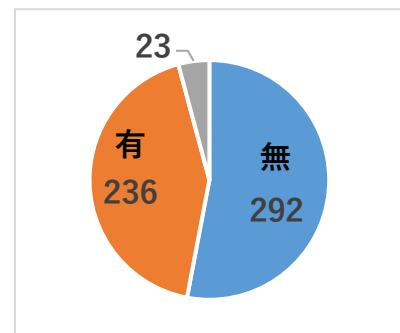
10代	4 (0.72)
20代	158 (28.6)
30代	194 (35.2)
40代	115 (20.8)
50代	45 (8.1)
60代	16 (2.9)
70代	9 (1.6)
80代	4 (0.7)
90代	1 (0.1)
不明	5 (0.9)
	551

④当事者の結婚歴



未婚	既婚	離婚	再婚	無回答
252 (45.7)	208 (37.7)	70 (12.7)	14 (2.7.4)	7 (1.2)

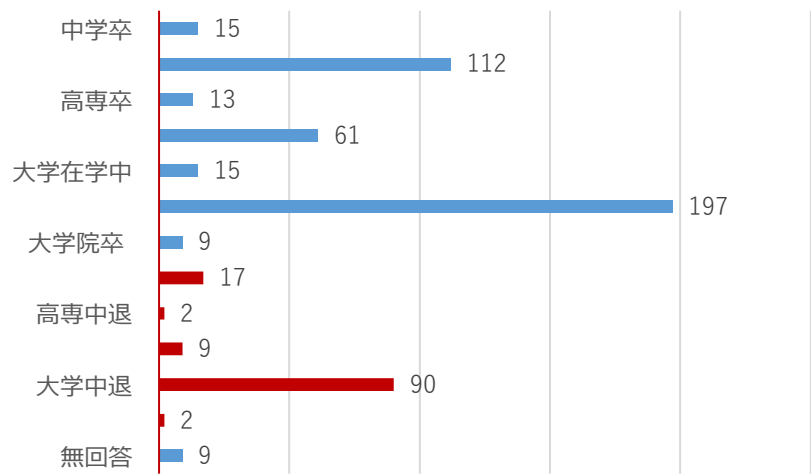
⑤子供の有無



無し	有り	無回答
292 (52.9)	236 (42.8)	23 (4.1)

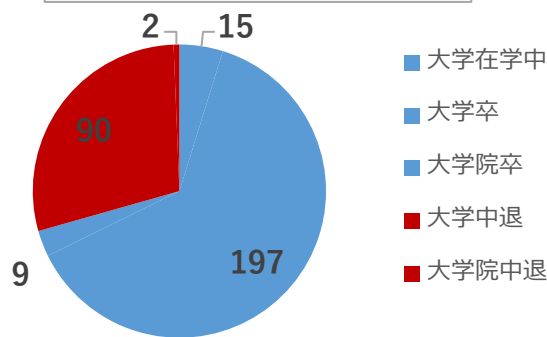
子ども達をギャンブル依存症問題の影響、貧困、家庭不和、世代伝播などから守ることが重要です。

【Q2】大学を中退する割合（ ）内は%



中学卒	15 (2.7)
高校卒	112 (20.3)
高専卒	13 (2.3)
短大/専門卒	61 (11.0)
大学在学中	15 (2.7)
大学卒	197 (35.7)
大学院卒	9 (1.6)
高校中退	17 (3.0)
高専中退	2 (0.3)
短大/専門中退	9 (1.6)
大学中退	90 (16.3)
大学院中退	2 (0.3)
無回答	9 (1.6)
合計	551

大学以上の学歴に絞ると↓



大学以上進学率 313名 (56.8%)
と進学率は国内進学率と同等ですが、
大学以上進学者のうち中退した割合をみると
92名 **(29.3%) およそ3割**の学生が
中退してしまっています。
大学生をギャンブル依存症問題から守ることは、
喫緊の課題と考えます。

参考資料

2016年筑波大学との共同研究でおこなった調査でも、
同様におよそ3割の人が大学以上を中退しています。

大学以上進学者 110名 (49.1%)
うち中退した割合 **35名 (31.8%)**

↓

最終学歴 (N=224)	人数	%
中学卒業	5	2.2%
高校・高専卒業	59	26.3%
短大・専門学校卒業	31	13.8%
大学卒業	72	32.1%
大学院卒業	3	1.3%
高校・高専中退	10	4.5%
短大・専門学校中退	7	3.1%
大学中退	34	15.2%
大学院中退	1	0.4%
無回答	2	0.8%

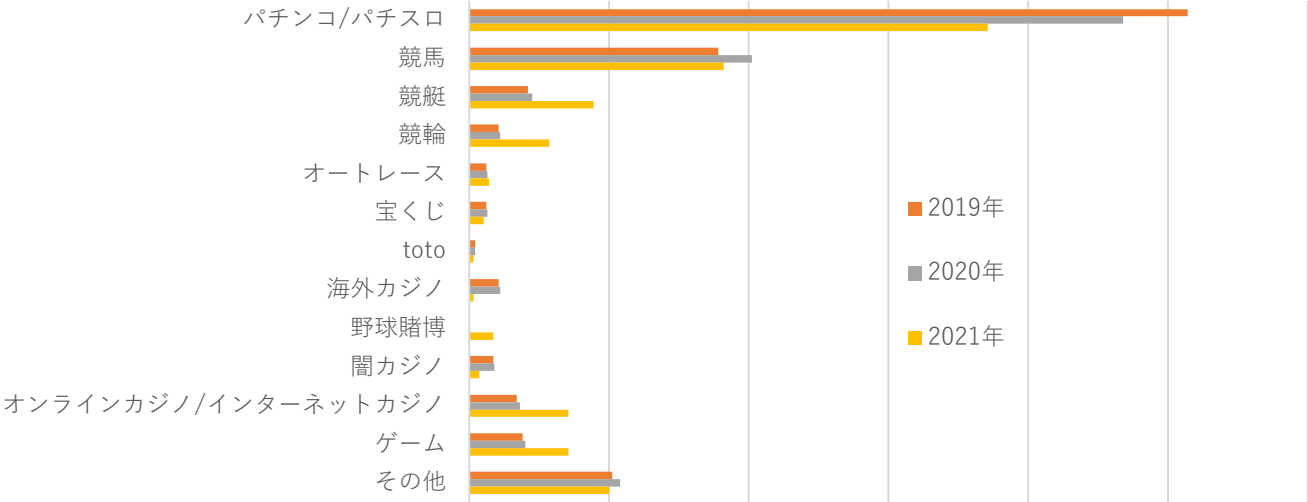
2014年～2021年までに、ギャンブル依存症回復施設（一社）グレイス・ロードに入寮した入寮者の
データでは、大学以上に進学した人のうち27.4%
とやはり3割近くの人が大学を中退しています。

大学以上進学者 102名 (45.7%)
うち中退した割合 **28名 (27.4%)**

↓

最終学歴 (N=223)	人数	%
中学卒業	3	1.3%
高校卒業	72	32.2%
短大/専門学校卒業	41	18.3%
大学在学中	4	1.7%
大学卒業	68	30.4%
大学院卒業	2	0.8%
高校中退	5	2.2%
大学中退	28	12.5%

【Q3】はまっているギャンブルの種類



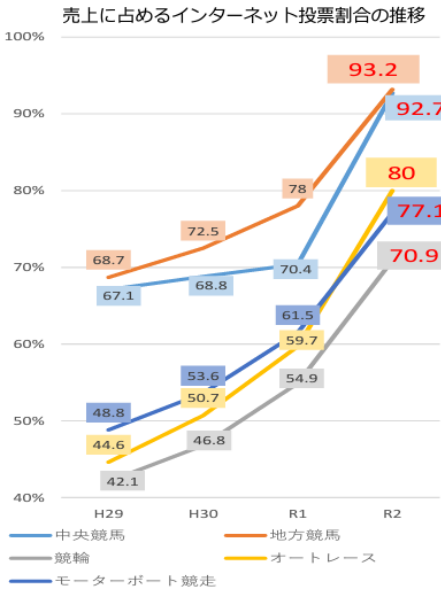
	2019年		2020年		2021年	
パチンコ/パチスロ	121	51.4%	104	46.8%	104	37.1%
競馬	42	17.8%	45	20.2%	51	18.2%
競艇	10	4.2%	19	4.5%	25	8.9%
競輪	5	2.1%	6	2.2%	16	5.7%
オートレース	3	1.2%	4	1.3%	4	1.4%
宝くじ	3	1.2%	5	1.3%	3	1.0%
toto	1	0.4%	1	0.4%	1	0.3%
海外カジノ	5	2.1%	0	2.2%	1	0.3%
野球賭博	0	0%	0	0%	5	1.7%
闇カジノ	4	1.7%	2	1.8%	2	0.7%
オンラインカジノ インターネットカジノ	8	3.4%	7	3.6%	20	7.1%
ゲーム	9	3.8%	10	4%	20	7.1%
その他	24	10.2%	19	10.8%	28	10%
	235人		222人		280人	

我が国でギャンブル等依存症で最も多い問題となるギャンブルの種類は、パチンコパチスロですが、コロナ禍の影響もあり、**アプリで投票できる公営競技やオンラインカジノの問題が広がっています。**その他の項目は、FXやバイナリーオプション、仮想通貨などの投資や投機となっています。

参考資料

①2022/2/3 内閣官房提出資料
ギャンブル等依存症対策推進関係者会議

②ギャンブル依存症回復施設
(一社) グレイス・ロード入寮者の
はまっていたギャンブルの種類

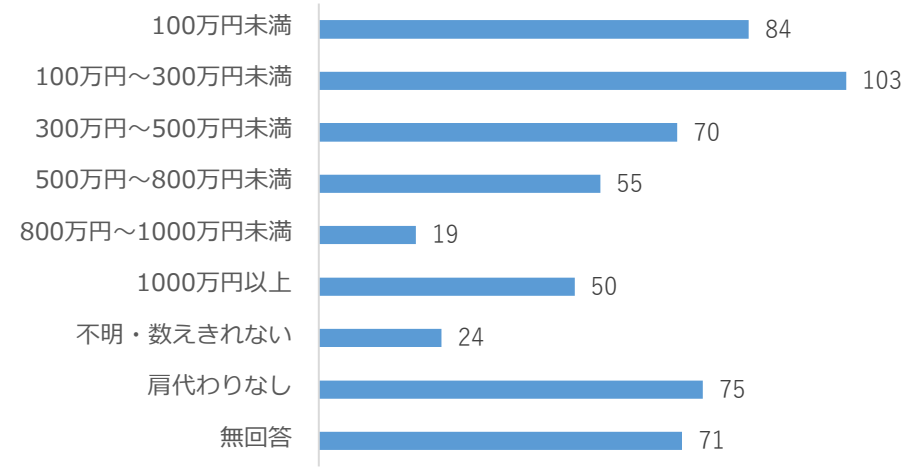


入寮年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	計
入寮者数	10	19	16	40	34	33	32	39	223
パチンコ	9	18	14	35	31	28	30	33	198
スロット	8	17	13	34	29	28	26	32	187
競馬	1	8	8	16	11	18	16	21	99
競艇	0	2	4	4	3	12	13	13	51
競輪	0	2	1	4	2	9	5	15	38
麻雀	1	5	4	10	7	9	2	9	47
カジノ (ネット含む)	1	3	3	3	5	8	5	13	41
投資	0	0	0	2	2	8	2	3	17

グレイスロードでは2019年からオンラインギャンブルが一気に増え、競輪とオンラインカジノが2021年にさらに増加した様子が見て取れます。

【Q4】 家族による借金を肩代わりした金額

(単位：万円)



借金額	人数	%
100未満	84	15.2
100以上～300未満	103	18.7
300以上～500未満	70	12.7
500以上～800未満	55	10.0
800以上～1000未満	19	3.4
1000万以上	50	9.1
不明・数え切れない	24	4.4
肩代わりなし	75	13.6
無回答	71	12.9
合計	551	

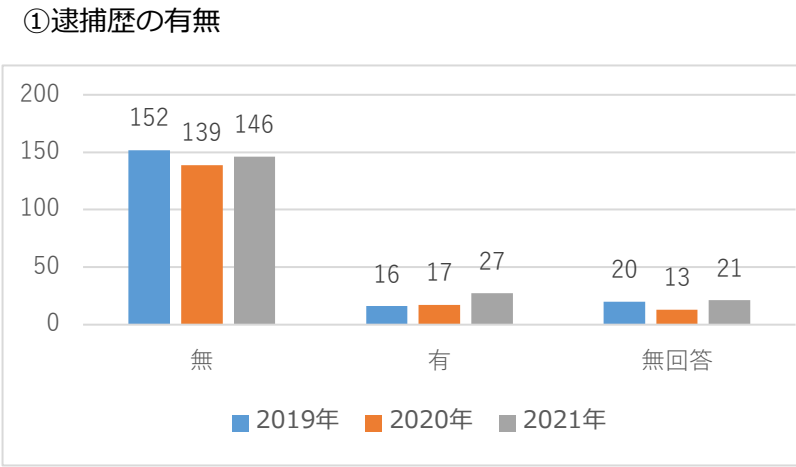
参考資料

ギャンブル依存症回復施設（一社）グレイス・ロードに2014～21までに入寮したギャンブル依存症当事者が入寮時にあった借金残額の平均額

依存対象がパチンコ・スロットのみ	85人	借金残額平均160万	最大500万円
パチンコ・スロット以外のギャンブルを含む	138人	借金残額平均494万	最大9200万円 1000以上 10人

ギャンブル等依存症者がはまっているギャンブルは、圧倒的にパチンコ・パチスロが多いが、公営競技やオンラインカジノ、投機などが含まれると、借金額が跳ね上がる傾向にあります。

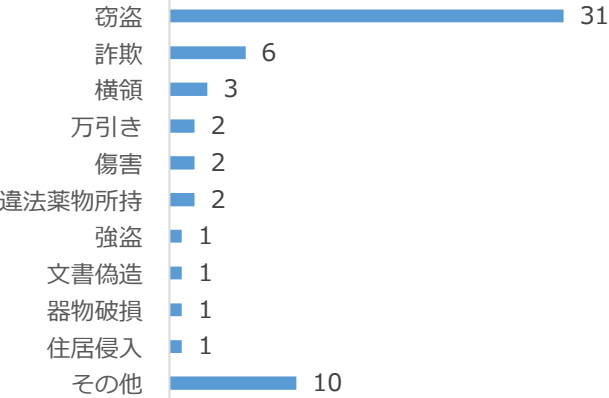
【Q5】 ギャンブル等依存症者の逮捕歴



相談年	相談者数	逮捕歴有	%
2019	188人	16人	8.5
2020	169人	17人	10.0
2021	194人	27人	13.9
合計	551人	60人	

ギャンブル等依存症者による犯罪率が増加しています。
今回の調査では逮捕にいたらず、示談等で決着したケースは含まれておらず、実際には犯罪まで至った数はさらに多くなります。

②罪名



罪名	人数	%	罪名	人数	%
窃盗	31	51.6	文書偽造	1	1.6
詐欺	6	10.0	器物破損	1	1.6
横領	3	5.0	住居侵入	1	1.6
万引き	2	3.3	その他	10	16.6
傷害	2	3.3			
違法薬物所持	2	3.3	合計 60人		
強盗	1	1.6			



今回の調査から二つのことが言える。一つは、ギャンブル依存症が人の学業を頓挫させ、人の道から逸脱した行動を引き起こす恐ろしい病気だということを改めて確認できたこと、そしてもう一つは、時代の変化に伴ってギャンブル依存症のありようが変化し、被害が加速している可能性があることである。コロナ禍を契機に社会のさまざまな局面でオンライン化が進んでいるが、その影響はギャンブル依存症にも及んでいるのかもしれない。

松本俊彦

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 部長

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院

薬物依存センター センター長

日本精神神経学会 精神科専門医・精神科指導医

シンポジウムのお知らせ

ギャンブル依存症問題はコロナ禍以降、新しい局面を迎えています。巣ごもり需要により、公営競技、オンラインカジノといったネットに参加できるオンラインギャンブルの需要が増え、それに加えギャンブル産業のみならず、**委託を受けたアプリ開発業者や業務提携をするネットバンクによる広告宣伝活動の活発化**により、日本の若者達がギャンブルに誘い込まれています。既存の法案では、オンライン投票を想定した規制がなく、現在ではスマホ決済サービスで公営ギャンブル投票権購入の**後払い制度まで認められてしまっている**状況です。

にもかかわらず、ギャンブル等依存症に対する予防教育や啓発は予算も少なく、ギャンブル依存症を発症した方々及びその家族に対する支援策は、遅々として進んでいません。

当会では、本年3月、4月、5月とご家族が支援を求めてこられた矢先にギャンブル依存症当事者が**自死される**という悲しい訃報が続いており、**当会設立以来の未曾有の出来事となっています**。

そこで啓発週間にあわせ、東京と大阪でギャンブル等依存症問題に関する現状と課題についてシンポジウムを開催致することに致しました。（チラシ添付）

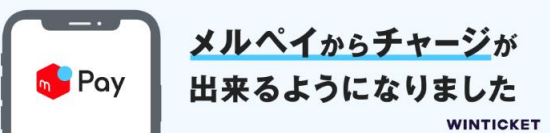
マスコミの皆様方には是非ご参集頂き、ギャンブル等依存症による問題点を世論喚起して頂ければ幸甚です。

アプリ業者や銀行による宣伝活動の拡大で、若者が取り込まれている



ジャパンネット銀行の普通預金口座をお持ちなら、パソコン・携帯電話から、どこにいても公営競技投票が楽しめます。

※ サービスご利用のための年会費・入会費は一切かかりません。



ひめぎんアプリで公営競技・スポーツくじを楽しもう!



本件のお問合せ先：

公益社団法人 ギャンブル依存症問題を考える会（代表：田中 紀子）

TEL 03-3555-1725

E-mail：info@scga.jp

